

1 開会

(1)事務局からの冒頭説明

事務局

これより、幸町地区総合整備検討有識者会議第3回会議を開会いたします。
本日ご出席の委員の皆様のご紹介は、資料1の配席表にてご紹介に代えさせていただきます。なお、岡委員、戸高委員、福永委員におかれましてはオンラインでのご参加、下倉委員につきましては、ご欠席となっております。

下倉委員より本日の議事に関して意見をいただいておりますので、議事の際にご紹介いたします。

本日の会議は、お配りしている次第の通り進め、会議の終了は20時頃を予定しております。

次第につきまして、事前にお配りしていた内容と変更がございます。

当初、議題として、青山クラブ・桜松館の建物調査の結果の速報を予定しておりましたが、「3 その他連絡事項」の中で、建物基礎部分の調査状況を報告する形に変更しております。よろしくお願いたします。

それでは、これより議事に移りますが、議事の内容につきましては会議録を作成し、後日ホームページに掲載いたします。また、会議録には発言者名を記載いたします。ご了承いただけますようよろしくお願いいたします。

それではここからの議事進行は、田中座長にお願いいたします。

田中座長

座長を務めております田中です。

本日は第3回ということで、本日も円滑な議事進行に努めてまいりたいと思っておりますので、皆様よろしくお願いいたします。

本日は4つの議題を予定しています。

1つ目の議題は、8月7日～8日にかけて実施した、第1回先進地視察についての報告として、参加された委員の皆様から、視察を通じたご意見・ご感想をいただきたいと思っております。

2つ目の議題は、8月29日に開催された第2回呉市立美術館あり方委員会のご報告を、横山副座長よりお願いしたいと思います。

3つ目の議題は、幸町地区の整備コンセプトについて、委員の皆様からご意見・ご提案をいただきたいと考えています。3つ目の議題につきましては、意見出し、提案を踏まえ、会議としての整備コンセプトの素案を、ある程度まとめることができたらと考えています。

4つ目の議題は、幸町地区に求める機能、新たに追加する機能について、前回の会議でも少し話をいただきましたが、もう少し議論を深められたらと考えています。

2 議事

議題(1) 第1回先進地視察の報告

田中座長

資料2をご覧ください。第1回先進地視察の報告資料を配布しております。先日の先進地視察は、東京都の九段会館、明治生命館、日本橋ダイヤビルディング、ホテルK5、群馬県の富岡製糸場西置繭所の5つの施設を、2日間かけて訪問しました。

視察を振り返ってのご意見、ご感想などをいただければと思います。

個人的には、都市計画やまちづくりが専門であり、例えば富岡製糸場の西置繭所はまちづくりなど周りへの影響が大きいと感じました。

同じくホテルK5も、デザインや施設の使い方について、エリア一带のことを考えつつ、街との関係を意識されているという点が非常に印象に残りました。今回の幸町地区も、周辺との連携を考えられると良いと改めて感じました。

河崎委員

九段会館などは、都会でスペースが少ない中、文化財を残しどのように有効活用するのかという点で、勉強になることも多かったのですが、特にホテルK5での街との繋がり部分は、呉でも活かせるのではないかと思います。

一方で、富岡製糸場については、製糸場の前の通りが寂しいと感じました。

当初は、全国規模のお土産屋も存在していたかもしれませんが、コロナ禍を経て、寂しい状態になってしまっており、もったいないと感じました。

お土産目線でいうと、お金が落ちていないのが残念に感じました。聞いたところによると、ふるさと納税もあまり伸びていないということで、場所とふるさと納税などを絡めながらやっていった方が良いと思いました。

富岡製糸場で解散した後、訪れた駅の手前の建物が面白く、実際にまだ製糸場となっているところがありました。それが紹介されていないことや、本当は富岡製糸場の中で糸が作られて世界遺産の商品として販売されていると良いと感じましたが、それがなされていなかったのが残念に感じました。

小野委員

1日目のみの参加でしたが、多様な建物を視察先として選んでもらえたことが良かったと思っています。国の所有で運用が民間であるとか、民間の所有で民間が運営というスタイルの施設があり、今回の青山クラブのケースとは違う部分もありました。

また、都心部や都会で増えている、外観として見えるところは残した上で、後ろは高層ビルにしてテナント型にするというのは、呉という地方では難しいのではないかと思います。ヒントとなるエッセンスがそれぞれの建物にあるというところ視察できたことは、とても良かったと思います。

個人的にはホテルK5が面白いと感じました。

視察の1か月前に、東京に行くことがあり、その際に周辺だけは行ってみようと思い歩いてみました。建物はホテルなので、外観はカッコいいと単純に思ったのと、周囲は面白いお店がチラホラとあるなという程度でしたが、今回視察に行き、お話を聞くことによって、その理由がわかったように思います。

小野委員

建物と街全体がデザインされており、建物を運営する方と、周辺の街へのテナント誘致や街づくりを考えていく運営者が合同でされていると聞きました。

そういった部分で、街との関係を、ひとつひとつの建物を見るたびに気になって見ており、興味深い面白い事例だったということと、歴史の継承の方法として参考になる建物だと感じました。

場所として、渋沢栄一さんをコンセプトとしてどのようにそれを表現していくか、歴史を継承して未来にどう繋いで行くのかというあたりが気になったところや、(K5の施設内で)バーを運営している方が、呉にゆかりのある方であったという点が、私の中ではとても大きな繋がりだったと思っています。非常に興味深く参考にしたい場所だと感じました。

松野委員

1日目と2日目で、目的が違う建物の残し方をしているという印象を受けました。

そうではないと地元の方は言われるかも知れませんが、東京で視察した4施設は、何をするためにこの建物を使っているのかが、はっきりと見えているような気がします。(幸町地区についても)そういうことを考えて、やっていかなくてはいけないと感じました。

一方で富岡製糸場は、建物だけを残している印象が見受けられました。

コロナ禍ということもあったかと思いますが、観光客の数がすごい減り方をしており、2回目3回目の来訪に繋げるためにはどうしていくべきなのか、しっかりとしたビジョンが必要だろうと思います。

そういった意味では東京で視察した4施設は、都市の規模などは違いますが、参考にすべき点は多々あったかなと思います。

戸高委員

どのように使うかということの一つの要素として、たくさんの人が常時使うものと、限られた人が使うものという分け方で、それぞれの残し方や使い方が違うというのがはっきり見えたと思います。

九段会館はオフィスビルと歴史的建造物を両方残そうという形ですが、例えば、K5は1日数組の数少ない利用者や、見学者に見せるというような使い方をしており、絶対数としてどのくらいの人が、どの風にするのかでケースが分かれてくると感じたところです。

どのように使うかを先に決めてから話をスタートしないとぶれてくると思います。今後の使い方をはっきりしたうえで検討していくというのが建物の残し方として重要だと思っています。

議題(2) 第2回呉市立美術館あり方検討委員会の開催報告

田中座長

続いて、先日開催されました第2回呉市立美術館あり方検討委員会の開催報告になります。横山副座長よりお願いいたします。

横山副座長

8月29日に開催された、第2回呉市立美術館あり方検討委員会についてご説明いたします。資料3をご覧ください。

呉市民にとっての美術館はどうあるべきか、様々な観点で検討しています。美術館についてのイメージが、話されている方によってかなり異なっているという実態があるため、地方の公立美術館としてどうあるべきかについてもう一度確認するため、博物館に関する法令等を確認しました。

公立美術館が基本的に規定する法律は博物館法になりますが、令和4年に大きな改正があり、社会教育法だけではなく、文化芸術基本法に基づくとということが明記されました。

資料の2枚目の博物館の定義第2条に、『資料を収集し、保管し展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を目的とする機関』と記載しておりますが、これに関しては法律の改正あるいは様々な審議会の法令等の改正にも関わらず、ずっと生きている、まさに博物館の根本だと考えられます。このため、資料を収集し、保管し、展示し調査研究ができる施設として美術館が存在しているということであると思います。

これまで指摘したように、41年前の開館当初は、まだ作品も持っておりませんでしたし、現在から見て基本的な機能を果たしていなかったということになりますので、リニューアルに際しては、美術館機能を満足させるということを前提として検討していきたいと思っています。

当初は市民のためのギャラリー、展示場という意識であったと思われませんが、これからはそれでは困るということになります。そうは言いますが、平成以降、いわゆる学校教育との連携の問題や、高齢者社会への対応の問題など、社会教育的な面がかなり協調されてきていますし、美術館・博物館の社会的ニーズが高くなっているという実態がありますので、その辺りをどのように示していくかということが、今考えているテーマになっていると思います。

コンパクトなところで考えれば、収蔵庫があり、展示室があり研究室があり事務室があれば美術館はできるわけですが、これに加えて教育との連携等を考えていくと、アトリエや講堂が必要ではないかという考えになります。

その辺は、美術館単体で考えるのではなく、入船山地区全体で考えられるところまでは話が進んでいるという状況にあります。

美術館の問題点として、収蔵庫が道を挟んでいるのはありえないという点があります。その辺を有識者会議の擦り合わせの段階でうまく落とし込めなければ良いと思っています。

学校への対応に関しては、教育委員会から要望が来ており、美術館も考えていますが、もっと活発にということになれば、現状のスタッフ・面積・予算等では出来ないため、幸町地区全体で考えていきたいところだと思っています。

<p>田中座長</p>	<p>先ほどの報告について、何か意見、質問はありますでしょうか。</p>
<p>戸高委員</p>	<p>こうした施設は、やりたいこと、やったらいいことはたくさんあり、積極的に全てやろうとしては、すぐに限界がきて、できないということになります。</p> <p>このため、市の美術館の在り方について、開館当初の市民ギャラリーでスタートしたところにもう一度立ち戻り、何をどこまでやるのかというコンセプトをきちんと固めることが大切であると思います。</p> <p>やりたいことはたくさんあると思いますが、願望に任せて拡大するのではなく、将来的に無理のない、呉市らしい、人員・予算などをきちんとした枠の中で確保し、特色を持った施設を作るために、まずはコンセプトを固め、その中で達成を目指すという視点に戻り考えるのは無意味ではないと思います。</p>
<p>小野委員</p>	<p>資料にある「絶対に必要な機能」「あれば良い機能」と分けて書かれているのが非常にわかりやすいと感じました。このような棚卸しのようなことをする時期にきているということを含め、市民も知った方が良いと思います。</p> <p>絶対に必要な機能である収蔵庫が、離れた場所にあるというのは、既に運営面から見て難しい部分があるということも問題と思っています。</p> <p>いずれにしても、市民にとって、この美術館が、何らかの措置、対応をしなければいけない施設であるということを、しっかりと認識できるのかが試されていると思います。</p> <p>私は、産まれた時からこの美術館があり、街に美術館があることを享受しながら過ごしてきました。無い世界と有る世界が違うことを、有る世界の人は気づかない。今、このタイミングで幸町地区の計画とも一緒に考えることで、市民が文化や美術館をどう考えるのかの議論が広がっていけば良いと思います。</p> <p>個人的な意見として、桜松館のホールが、そのまま美術館機能になれば良いと考えています。施設内を活用した際、思っている以上に部屋が多いと感じましたが、そうした施設を活用することも含め、美術館を再考するということがしっかりできればと改めて感じています。</p>
<p>松野委員</p>	<p>収蔵庫が離れていることについては、どうしても解決しなくてはならないだろうと思います。</p> <p>青山クラブが収蔵庫になるのかどうかという観点で現場を見ていましたが、空調などにかなり力を入れなくてはいけないと感じました。青山クラブは、収蔵庫以外を補う施設として建物を使うという点では可能だと思いました。</p> <p>特に、「あれば良い機能」の講堂や多目的ルームなどの機能で使えるだろうと思いつながりながら説明を聞いていました。</p>
<p>田中座長</p>	<p>一定の枠の中で何を実現するのかというところを、引き続き検討されていかれるかと思います。</p> <p>機能を地区全体で考えていく視点が必要になってきており、幸町地区の再整備の方も必要ですので、引き続き連携できればと思います。</p>

議題(3) 幸町地区全体の整備コンセプトについて

田中座長

続きまして議題(3)に入りたいと思います。

これまでの意見をいただけてまいりました。意見を踏まえてコンセプトの提案をいただき、有識者会議としての整備コンセプトの素案を固めていきたいと思っております。これに関して資料4・資料5を配布しているかと思っておりますがこちらの資料について事務局より説明がございます。

事務局

資料4は、幸町地区全体の整備コンセプトに関する意見として、前回の会議の際にいただいた委員の皆様の見解を記載しております。事務局で整理し、共通の言葉も出てきていますが、会議全体を通した中で、「つなぐ」という言葉など、美術館のあり方検討会の中でも似たような言葉が出ていると思っております。

次に幸町地区全体の整備コンセプトの検討にあたり、「つなぐ」、「つながる」、「市民」、「歴史」、「伝える」といったキーワードを事務局でまとめ、資料5において、「歴史」「市民・来訪者」「文化・芸術」というカテゴリーに分類し、委員の皆様からの主な意見をカテゴリー毎に記載しております。

「つなぐ・つながる・つなげる・紡ぐ・伝える・体験する・育む」といったワードが集約できるのではないかと思います。それらを踏まえた上で、整備コンセプトの素案ということで、事務局の方で3つ作成しております。

【案1】海と歴史に育まれた文化と芸術を楽しむ市民が集う、もう一つの「呉」

【案2】呉の歴史・文化・芸術が育まれた物語(ストーリー)を体感するエリア

【案3】呉の歴史を感じ、文化・芸術に出会い・育み、未来へつながるエリアの3つが事務局の素案となります。

あくまで、委員の皆様を検討いただくための素案ですので、これらをベースとして、委員の皆様でブラッシュアップしていただければと思います。

また、本日ご欠席の下倉委員からは、「海の平和とものづくり」というコンセプト案をいただいております。

田中座長

資料4については、この有識者会議で前回、前々回に幸町地区の整備コンセプトとして皆様から挙げていただいた意見を事務局でまとめたものです。

資料5は事務局で整理し、整備コンセプトの素案を作った内容となります。

整備コンセプトを大きく括ると「歴史、市民・来訪者、文化・芸術」に、ある程度、集約されるのではないかという説明であったと思っております。

キーワード的に出てきたものとして、「つなぐ」、「つながる」、「つなげる」、「紡ぐ」、「伝える」、「体験する」、「育む」といった言葉が共通として出されていたというところであり、これらを繋げる形で、素案を3つ作成されています。

いずれかの素案に対して、また、この3つの素案の中には無い案など、ご意見をいただければと考えております。

委員の皆様、いかがでしょうか。

呉市長

この素案は事務局の事務方の意見であり、私の意見は入っていないことを先に申し上げておきます。

9月13日にTown&Gown 構想キックオフシンポジウムが行われ、広島大学と呉市、海上保安大学校、笹川平和財団が一緒になり、海洋・海事の国際拠点を作ろうという話をしました。

その中で笹川平和財団の角南理事長が印象的なことを言われました。

呉は海洋文化という意味では特殊な街で他の街とは全然ちがう。今、海洋文化都市というのを神奈川県などで考えているようなのですが、海洋文化都市というのは呉市にピッタリである。そういう方向を向いた街になって欲しいということと言われました。

そのような街を広島大学・海上保安大学校・呉市が連携して一緒に作り、国際機関のような施設の誘致を目指したら良いのではないだろうかという内容のシンポジウムでのやり取りが、呉市のHPにも掲載されています。

少し報告のタイミングがずれてしまいましたが、このようなやりとりがあったということを、皆さんにご紹介いたします。

先日の呉市議会において、呉には若者の居場所がない、思春期の世代の子どもたちの居場所がないという意見があり、もともとであると感じています。

例えば、呉駅の再開発で建物を解体するときに「ウォールアート」という非常に珍しいことをしていただいたり、ストリートカルチャーということでパークールなどを紹介していただいたりしました。

宮原高校は、野球でいえば甲子園のようなところでダンスの大会で何度も優勝していることや、広島文化学園大学にもダンスで有名な先生がおられるなど、呉市でも若者文化は盛んですが、抛り所の場所がないということもお考えいただければ良いのかなと思います。

また、机の上に（呉市立美術館の企画展のチラシを）配布しておりますが、先日、明和電機のミニライブを聴きに行きました。明和電機の土佐社長は、小学校の頃、青山クラブに家族で泊まっているそうです。戦前に下士官の人だけが泊まっているだけだと思っていたのですが、いろんな方の記憶にあるのではないかと思います。参考にいただければと思います。

田中座長

海洋文化都市の話と若者の文化の話といろんな方の記憶というところの話だったかと思います。

市長から少しインプットいただきましたが、この点も踏まえて、資料5の整備コンセプトについてご意見を頂ければと思います。こういうキーワードが足りないとか、こうしたら良いのではないのか等、いかがでしょうか。

小野委員

イメージとしてもっと未来が見えたほうが良いと感じています。

呉の歴史の部分にも関わるような気がしていますが、先ほどの市長が言われた海洋文化都市というお話も、呉の歴史を海軍だけではなく、それ以外の海の歴史、呉の歴史というものを読み解いていけば、結果的に瀬戸内海のだ真ん中にある街が、世界に開かれた街であるとはどういうことなのかということなどがわかるのではないかと思います。

小野委員

海というのは景観的に開かれた場所というか、世界を見てやってきた企業が多いでしょうし、そういったところも含めて呉の歴史というのであれば、素案3の方向性は間違っていないと感じています。

また、あらゆるところで出てくる呉の問題で、高校生が勉強を無料とするようなところが本当に無いということは、急務だと思っています。

自分が選んで住んでいるわけではないこのまちで育っている世代の方たちが、このまちで何を経験できるか、その人たちが高校を卒業して出て行くとしても、この世代の方たちが、このまちを作るとしています。

素案の方向性に違和感はありませんが、今現在の大人が、未来に対して宣言をするようなイメージのものが良いと思っています。立地的にも要になる場所にあるが故に、未来をこういう風にしていくからこの場所をこのように作る、ということがはっきりと言えるくらい、ここに生きている大人の宣言が含まれるようなものになるまでブラッシュアップしていくべきだと思っています。

委員から出た全ての言葉を拾い上げて作り込んでいただけているので、もっと研ぎ澄ましていけば、しっかりとしたものになっていくと感じています。

松野委員

コンセプトから外れるつもりはありませんが、歴史という言葉だけが独り歩きしないようにした方が良いと思っています。

素案3の、“未来へ”というところが目立つような方向性が良いのではないかと思います。これからの子どもたちが未来に行くために、この場所が必要になるということを、しっかりと大人が宣言するという事に繋がるのではないかと感じています。

そのような観点で、素案3の“未来”のところを、もう少し大きく打ち出していくべきだと思っています。

水田委員

歴史という言葉について異存はないのですが、「歴史・文化・芸術」という言葉はどこの施設でも割とよく見るキーワードだと思います。

先ほど下倉委員から、平和というコンセプトも重要ではないのか、あるいは市長のコメントでも海とつながっているというコメントがありましたが、以前の委員会の中で広島のパワーと呉のパワーは違うのではないのか、広島は、原爆が落とされて陸軍の街だったという性格と、呉は海軍の街で4つの軍港のうちの一つだったという特徴があるのではないかと思います。軍港都市だったという性格、呉ならではの平和、海とつながっていることなどが入ってくると、呉の独自性が出てくるのではないのかと思いました。

河崎委員

ハブ的な役割をしていた場所で、呉集会所というものが残っており、そこを人が集う場所・つなぐ場所ということで今後も進めてもらいたいと思っています。

歴史と未来、若い子たちがどンドン外に出てほしい。

その時に今、呉市立美術館の入館料は、高校生まで無料です。入船山記念館も呉市の小学生・中学生は無料ですが、高校生まで無料にしていきたいなと思っています。

河崎委員

また、欲しい機能としては、わかりやすく歴史を伝える点です。先進地視察先の日本橋ビルディングは、その場所、建物の歴史がしっかりと描かれており、とても分かりやすく、基礎杭として使用されていた松材が、イスとして再利用されていたり、小さい子にもわかりやすい内容で伝えていたと感じました。

呉は東京や大阪もしくは海外に出ていったときに誇れる街だと思っています。特に入船山記念館には「アドミラル東郷（東郷提督）」が住んでいた家があり、海外に出ていったら自慢できるものです。そういったものを分かりやすく伝える場所になって欲しい。

また、ハブ的な役割で、市民と観光客がつながる場所が欲しいと思います。

広島とは別の、呉が伝える平和についても、戦争を見た青山クラブがまだ残っているため、この場所で伝えるものはあると思っています。

横山副座長

整備コンセプトの素案1を見ていると、「海と歴史に育まれた文化と芸術を楽しむ市民が集う」とありますが、楽しまない市民は集わないのか、という風に捉えることもできるかと思っています。

今までこの会議でも出てきましたが、未来を担う若い人や文化や芸術に興味を持つ入門者の一步手前の人たちが気軽に来られるというのも、この地区としての役割の一つではないかという話があります。そうした観点で、素案1は、変に限定してしまうように聞こえてしまうと思います。

また、もう一つの「呉」というのは、先ほどの海洋文化都市とは違う呉を考えているのかなど、茶々を入れたくなる気がしますが、いかがでしょうか。

素案2も“物語（ストーリー）”という点は中途半端ではないかと思っています。

歴史という言葉は、使い方がとても難しいということがありますが、素案3に関しては“呉の歴史を感じ”の「感じ」を取れば、「呉の歴史・文化・芸術・出会い」というようにストレートな表現になるのではないかなという気もしますが、いかがでしょうか。

田中座長

横山副座長からご提案いただきましたが、「呉の歴史・文化・芸術に出会い・育み、未来へつながるエリア」となる感じでしょうか。

その下に、平和や海洋など、いろいろなものが紐づいてくると思います。

小野委員

コンセプトは、ものすごく重要ですので、1回では終わらない、終わらせてはならない部分だと感じていますので、ブレスト（ブレインストーミング：アイデア出し）的に、どんどん意見を出していこうと思っています。

楽しむというワード自体は好きなのですが、先ほど委員の方々も言われていた、歴史という言葉が独り歩きしないようにという点と同様に、平和と言葉も非常に難しいワードだと思っています。

いずれにしても、ひとつひとつの単語を使うためには、それが何を示しているのかを考え抜かなければいけないレベルの言葉であり、すごく重要な観点であると思っています。

これまでの議事録は、細かくワードを抽出されているため、しっかり見たいと思っています。

小野委員

また、別の事例になりますが、先日、瀬戸内国際芸術祭の講演会を聞いた際に、コンセプトが「海の復権」であるとはっきりとしていたことがとても印象的でした。「権利を取り戻す」というコンセプトがそこにあるから、コンセプトが全体に通じて、全てのプログラムに反映されていると思いました。

海や島というところが、改めて考え直されているところではあると思います。呉の歴史を考え始めると、恐らくそこまで至らなくてはならなくなってくると改めて思っています。

ただ、シンプルにこの場所をみんなが使いたくなるものにするという点も忘れてはいけないとも思います。ハッピーな、使いたい施設になるために、もっとコンセプトを練らないといけないと改めて感じたところです。

田中座長

小野委員からプレスト的にこの場でいろいろと意見を出せばというお話でしたので、そういう場になればと思っています。

戸高委員

このエリアの中で何を作るのかを考えると、呉の文化や芸術、歴史というのは当然ここだけではないわけです。そのようなものの、ハブ的な施設になるのが望ましいと思います。

色んな人が集まれるような場所ができた際には、周辺エリアにも情報が及ぶような施設になると良いと思います。そのようにしていくために最初に何を考えれば良いかを考えた時に、将来をどうするか、若い人をどうするか、歴史や過去の情報は、より良い将来のための教科書・情報であるべきだと思います。

歴史というと鎌倉時代や江戸時代など堅い印象に捉えてしまいがちですが、ここで考える歴史というのは、若い人にとって父母の記憶であり、祖父母の記憶であり、そのような自分に直接つながっている呉の歴史をきちんと伝えられると、自分の存在というのが呉の歴史の流れの中で、自分が今ここにいるということが分かるような場所であることが望ましいと思います。

先ほどから言われている、歴史という言葉が独り歩きするのは良くないという点は、本当にその通りであると思います。

歴史を堅いイメージで捉えてしまうと、(コンセプトとして考えているものと)違うものがそれぞれの人に浮かんでしまう恐れがあるため、もう少し違う表現、違う形で呉の地域の体験が伝わり、自分はこの地域で生まれたという誇りを持つような方向に誘導できるような形が望ましいと思います。

この地区だけのことを考えるのではなく、枝葉をたくさん出し、情報が集まるようになっていけば良いと思います。施設自体は、別のレベルで考えなくてはいけないと思いますが、私自身は、別の地域から呉に来たので、外から見た呉のイメージがあり、歴史の街というイメージは持っていますが、街の人はあまりに普通過ぎて興味を持っていないと感じたことがあります。

最初に来た時に瀬戸内海の景色を見てすごいと思ったので周りに言うと、みんな生まれた時から見ているため、すごいことだとは思わないようです。しかし、外から来た人間にはインパクトがあります。そういった点を改めてピックアップ(拾い上げ)していけるような施設であってほしいと考えます。

岡委員

言葉なので、何かを言うと、言わなかったものが排除されている感じになってしまったり、具体的な対象者を語るとそうではない人はどうなのかという話にどうしてもなるため、言葉というのは非常に難しいです。

素案の中で、「歴史・文化・芸術」というワードが出てくることであったり、「海洋文化・海」という言葉が出てくることは、自然な流れだとは思いますが、誰に向けての話なのかが見えて、かつ、誰からもそうだよねと思える対象者である時に、腑に落ちるコンセプトになるのだろうと思います。

過去を見て、文脈を未来につないでいくというのは、街としても人としても基本的な思考としてあると思うため、過去の施設を更新し、未来に紡いでいく理由というのは、歴史にしても文化にしても芸術にしても、未来のこの街のこどもたちを見据えていると思っています。

歴史や文化を語る時に、未来のこどもたちが呉の歴史を知らずに育つのは良くないですし、文化的であってほしいですし、呉らしい芸術というものを知った上で育っていくことで、呉という街が変わっていったとしても、過去から紡がれてきた文脈みたいなものが、この施設があることで紡がれ続けていくために、歴史的な施設を更新するということは意義があると思っています。

コンセプトとして、未来のこどもたちに紡いでいきたいという想いは、誰も否定のしようもないもので、こどもたちのことを語ることで大人たちが排除されているような気持ちになる人たちは恐らくいないと思います。

そうした意味では、見据える景色がクリアになり、歴史・文化・芸術という言葉だけでは、大人なのか、こどもなのか、おじいちゃん、おばあちゃんなのか、日本人なのか海外の人なのか、いろんな解釈があり得ますが、未来のこどもたちのような具体的な存在が語られると、意識が具体化されるような気がしており、そういう言葉を使っても面白いと感じました。

歴史・文化・芸術という言葉も、具現化する形容詞（どういう海洋文化なのか何の芸術がキーワードになってくるのかなど）が付くと良いと思います。

人類の歴史の前に、どのようにこの場所ができたのか、どういう地層なのかというのも歴史なので、歴史という言葉に具体性が欠けるのは少し気になっています。何の歴史なのか何の文化なのか、何の芸術なのか、形容詞が付くとよりクリアになると思いました。

読んだときに良い意味で疑問が浮かぶ、気になる言葉があるコンセプトは、良いことを言っているか悪いことを言っているか以上に、記憶に残ると思います。そういった意味では、素案1のもう一つの「呉」というのは、非常に力強い言葉だと感じています。

この場所は文化複合施設だと思いますが、文化複合施設というのはたくさん使われている言葉であり、どの街にも文化があり、たくさんの要素が集まればそれは複合施設であるため、何かを言っているようで、それは実は何も言っていないと感じます。

もう一つの「呉」という言葉は、“どういうことなのか”とみんなが一瞬思わされる言葉であり、立ち止まらせるコピーになっており、考えさせられるコピーで非常に面白いと感じました。

福永委員

市長が最初におっしゃっていた海洋文化都市というのは、呉の特徴としてありますが、市全体のコンセプトを幸町地区だけで実現するというのは無理な話だと思っています。そのため、大きなコンセプトの中のどの部分を担うのかという形で進めていけば良いと思います。戸高委員がおっしゃったように、インフォメーションというか、ハブになる、ヒントを与えるような施設が、この地域で実現すれば良いと思っています。

市の計画を、全て幸町地区のみで実現するような施設は、恐らく無理だと思っています。具体的にどのように落とし込んでいくかが、すごく必要だと思います。

また、先進地視察に行った際に、見たものが全て違うわけです。我々はどういうものを作ろうかということを考えないと、ただ見て「いいね」ということで終わってしまうと思います。市の大きなコンセプトがあり、その中で幸町が何を担うかということをしきりと決めないと、見ただけでは何もならないし、すれ違うような気がします。

私は美術館の出身ですので、この地域の再開発は、美術館を中心とした文化施設が望ましいと思っていますが、他の委員の方からすればそのように思っていない方もいらっしゃると思います。このため、まずはここで何をやるのか、どういう人をターゲットにするのかということをもう少し明確にした方が良いのではないかと思います。

加茂委員

呉周辺だけではなく全国から、小学生、中学生が呉基地を訪れる機会が多くなっているように感じています。広島や大和ミュージアムに行き平和学習の一環として来ているところが多くあります。

青山クラブや桜松館も、外の人達を引き付けるような場所になると良いと思います。併せて、呉市民が自由に集える施設にもなれば良いとも思いますが、私の場合、どちらかといえば外からの目線で見えており、呉を見た場合にどういう風に見えるかということ、明治以降の近代化産業の集積地、核のようところが呉にはあり、多くの観光客や学習をしたい方たちを集めています。

青山クラブ・桜松館は非常に立地が良く、歴史のある地区にあるため、それを核にするのが良いと思います。呉市もエリアが広いため、呉市のみんなが楽しめるとなると、発散してしまうのではないかと思います。

小野委員

もう一つの「呉は」、事務局としては何を指しているのか、現時点での意図を確認しておきたいと思うのですが。

事務局

以前の会議で、岡委員からのご意見にもありましたが、陰と陽の相反するものが混在する、魅力の明確化ということがあると思います。

みんなが知っている呉のイメージというのはいろいろあると思います。大和のイメージもあれば海軍のイメージもあります。自衛隊のイメージやふるさとのイメージかもしれません。

しかし、それと違うイメージのものが、この場所に行けば見ることができるというような、表と裏の関係のイメージでしたが、一般的には分かりにくいのでブラッシュアップさせていただくため、素案として挙げたところです。

事務局

未来へ向けてのメッセージについては、具現化できていなかったのですが、海というのはひとつのテーマになると思いましたので、提案いたしました。

事務局としては、今日中にコンセプト素案をひとつにまとめていただきたいという思いはありますが、松野委員のおっしゃるとおり、次の議題の機能的なものとの連携もありますし、ここは大事なところですので、みなさん時間をかけて納得できるものができればということで、たくさん意見を言っていていただいてブラッシュアップしていければと思います。

水田委員

先ほど平和と海洋都市と申し上げましたが、この背景には、国際化への対応の意図があり、海洋都市というのを申し上げた次第です。

広島には多くの外国人観光客が訪れており、おそらく今後は呉にも来ることになると思いますし、呼び寄せる必要があると思います。ただ、その場合、重ねて申し上げたいのは、外国人を呼ぶことに集中するのではなく、戸高委員のご意見にもありましたが、自分たちの歴史、市民が当たり前前に過ごしていた歴史、自分の父母、祖父母が泊っていたあの場所というのが、外国人にとって魅力的に映るのかもしれない。そういった市民のプライドがあり、当たり前の生活が外国人にとって非常に新鮮な魅力的なものに映る、そういったことが狙えれば良いかと思えます。

海洋都市あるいは平和ということが一つのきっかけになるのではないかと考えています。

横山副座長

歴史という言葉は注意とありましたが、芸術という言葉もすごく注意が必要です。芸術という言葉こそ、訳のわからない言葉ということもあります。

芸術と言った瞬間に、どこまでが芸術かということが出てきたりします。そこも広く「文化」の中に入るものだと思いますので、その辺は自由に考えて良いのではないかと思います。

もう一つの「呉」はキャッチーで良い言葉だと思います。もう一つは、岡委員のご意見にもありましたが、市民がテーマに入ってくるという気がします。特に「芸術」という言葉にこだわっているのではないということは申し上げておきたいと思えます。

田中座長

この場でのご意見は大体出していただけたかと思えます。

基本的なところでは事務局に挙げていただいたワード（素案）に対して、それほど違和感はないのかと思えます。

素案3にある「未来につながる」という部分を前面に押し出すことを考えられると良いというのが、全体の意見の方向性としてあったのではないかと思います。ただし、歴史や芸術のワードチョイスについては、考えていく必要があるのではないかと思います。

「未来」、「子ども」につなげるという大きな柱の部分は、このままで良いのではないかと感じました。もう少しキャッチーでオリジナリティを出していくことが必要であり、これに関しては、国際化などいろいろな方向性があると思えました。

横山副座長	<p>資料の中で、高校生や10代の方のための項目の2番目に、美術館の中にスポーツのための施設（着替えや休憩）とありますが、この表記だけでは少しわかりにくいと思います。</p> <p>現状ですと、美術館の別館はカフェと収蔵庫が入っております。あの建物は割り切ってスポーツのためと作り変えることはできますが、美術館の中にスポーツのための施設が入っている必要は無いのではないかと考えますが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>補足ですが、現在の美術館の建物について、美術館の機能として使わなくなった時に、こういう使いた方ができるのではないかというご意見があったため、記載しているものです。</p>
松野委員	<p>資料の中の、「呉ならではの産業を紹介し」という部分ですが、所属している学校においても、学生に、呉はものづくりの街だということを言ってきましたし、私自身もそのように育ってきたということがあります。</p> <p>歴史を知ることの一つにも関わってくると思いますが、呉の産業を知るという意味で、ものづくりの街であることをこれから未来につなげていくというメッセージ性のある施設があると、将来の職業を選ぶためにも繋がっていきますし、呉の産業の発展に若者が寄与するといった点にも繋がってくるのではないかと思います。</p> <p>この場所である必要があるのかと言われると、考えなければいけないところもありますが、その機能が呉市のどこかにあるべきであろうと思っています。</p>
河崎委員	<p>少し話は戻ってしまいますが、もう一つの「呉」というワードが良いのではないかと感じてきました。</p> <p>私がこれまでに提案したユースセンターも、学校と家ともう一つの場所。</p> <p>また、この地区は歴史のある場所ですが、新たなものを生む場所になっても良いのではないかと。</p> <p>高校生、学生たちが集まり、何かを生む場所ということを考えると、もう一つの「呉」というのは良いと思いました。</p>
小野委員	<p>施設のあり方として考えると、私の現時点のイメージとしては、美術館を中心とした文化拠点・施設があれば良いと考えながらあの場所を見えています。</p> <p>今の使い方があるから見えているため、斬新な考え方には至っていないのかもしれませんが、今の使い方を踏まえた中でこのように思っています。</p> <p>つばき会館という場所が担っている生涯学習センターと呼ばれる場所がそこに入っており、近いうちに再整備等があるのではないかと感じていますが、生涯学習センターを利用している市民が、しっかりとおられるという現状はあると思っています。</p> <p>私が平日および土日に行く限りでは、すべての部屋が埋まり、いろんな人が様々な活動をしています。ただし、そうした状況が、高校生や子どもたちに届いているのかとも感じています。</p>

小野委員

実は、文化的な活動をいろんな方がしていますが、それが見えにくいという状況は、今の呉市の街のあり方自体であると思っています。

表に出した方が良いものはどんどん発信し、しっかりと子どもたちに見せようとするというのは、一つの大人の責任であると思っています。

呉はものづくりの街ですが、その「もの」は、何を作っているのかとなった時、その言葉が意味しているものをしっかりと見ていくことが、今の呉の全体において必要ではないかと思っています。

実際はやっているが表に出していない、閉じたところで楽しんでいるといった文化が、呉にはあるのではないかと体感的にと思っています。

幸町というエリアすべてを美術館が担うわけではなく、それを中心とした文化拠点というものがここに成立しており、活動している人が見えやすくなり、多世代の方の交流が結果的に生まれます。機能としてはユースセンター。高校生たちが無料で学ぶ、体験するということに対して資源を投じても構わないと、私たち大人の世代がしっかりとと言えるような場所を作った上で、高校生が行きやすい場所に、たまたまいろんな人がカルチャースクールのような形で使っていれば、結果的に、学生たちは文化を楽しんでいる大人を見ることが出来る場所になるとと思っています。

つばき会館がやっているようなことを、未来に向けてブラッシュアップするようなイメージを持って良いのではないかと思っています。

水田委員

新しい機能を追加することに異論はありませんが、歴史的建造物としての価値を損なうような改修、機能の追加にならないようにということを繰り返し申し上げたいと思います。

田中座長

本日のご意見と、前回までのご意見と合わせ整理し、次回の有識者会議の際に振り返っていただき、とりまとめができれば良いと思います。

呉市長

視察に同行した際に、委員の方々から、市長が思っていることがあれば話していただきたいとの意見がありましたので発言いたします。ただ、この発言のようにして欲しいということではありません。市長はこう思っているということですので、それを踏まえて、皆様のご意見がそうではなく、納得できるご意見があればそれに従います。ただ、私はこう思っていますということ、この場で敢えて申し上げておきたいと思っています。

今日のお話で大変感動したのは、子どもたちから未来へというお話で、このコンセプトというのは誰向けに言っているのかというお話があり、もう少し思春期の若者たちも含めて良いと思いますが、自分で選んだわけではなく、呉で生まれて呉にいますので、そういう人たちの未来に向けてどのように考えていけばいいのかということ、ここで感じることができ勉強することができるかというのが大変素晴らしいことだと思います。

戸高委員からもありましたが、歴史というのは堅苦しいものではなく、自分たちの両親、おじいさん、おばあさん、おじさん、おばさん、いとこといった人たちであり、そういう歴史であるということも非常に大事なことです。

<p>呉市長</p>	<p>先ほどのお話で、明和電機の土佐さんが青山クラブに行ったことがあるなどのエピソードもありましたので、そういったことを大事にしましょう。また、海外や市外から来た人から対しても、我々の両親の話やもう一世代、二世代前の話をすれば、大変ユニークな、日本の中でも珍しい、世界の中でも貴重な歴史であると感じてくれるのではないかと思います。</p> <p>呉で当たり前の生活としてあったことが、市外や国外の人から見ると、魅力的だと思いますので、そういったものを示していく、外の人から感想を言うってもらう場とする、それをこどもたちが未来へつないでいくと、それはまた広島とは違う呉ならではの平和になると思います。そういった点が大変素晴らしいのではないかと思います。</p> <p>また、ものづくりという意見がありました。戸高委員が言われましたように、ここで呉の全部ができるわけではないため、その中で何を考えていくのかとなった時、特に一番大きいのは大和ミュージアムとの関係を考えていかななくてはいけないということです。</p> <p>まさに、ものづくりの歴史をやろうというのが大和ミュージアムだと思っていますので、むしろそちらでやっていただいた方が良いのではないかと思います。呉市の中でどこかでやれば良いというご意見でしたのでそういう意味では同じです。現在、大和ミュージアムのリニューアルの中で取り上げていこうということになっていますので、ご認識いただければありがたいと思います。</p>
<p>田中座長</p>	<p>ありがとうございます。市長からもご意見をいただきましたが、それらも踏まえて次回以降の議論に活かしていきたいと思います。</p> <p>今後は、建物の基礎部分の進捗状況や、2回目の先進地視察を通じた知見も踏まえて、引き続き議論を深めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>

3 その他連絡事項

<p>田中座長</p>	<p>桜松館、青山クラブの建物調査業務の状況報告をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>青山クラブ・桜松館の建物調査業務の状況について報告いたします。</p> <p>この業務は、青山クラブおよび桜松館の建物の基礎部分、床面の調査を行い、これらの結果に基づき、施設の利活用にあたり必要と考えられる補修方法や補強対策案を整理し、有識者会議において来年度に向けて建物の利活用を検討していくための基礎資料とするべく実施しているものです。</p> <p>現地調査は、8月31日から9月8日にかけて、日本工営都市空間(株)において実施しました。</p> <p>本日は建物基礎部分の調査の進み具合を速報としてお伝えいたします。</p> <p>建物基礎部分の調査ですが、青山クラブにおきましては、美術館通り側の地下部分のない1階フロアおよび国道487号側の地下フロアの2か所、桜松館につきましては1階フロアの1か所の、計3か所において実施しております。</p>

事務局

まず、青山クラブですが、美術館通り沿いの1階床下点検口から床下面に入り、基礎の大きさや深さが確認できるところまで土を掘り、調査を行っております。現地では基礎コンクリートの下に松材の支持杭が確認されました。

次に、青山クラブの国道487号側の地下におきましては、地下1階の床下点検口からさらに下の地下面に入り、基礎の大きさを確認しております。

続いて、桜松館の1階におきましては、青山クラブのような点検口が確認されなかったため、会議室として使用されていたフロアの床面を調査可能な最小限の範囲で撤去した後、床下の建物基礎の大きさや深さが確認できるところまで土を掘り、調査を行っております。青山クラブ1階で確認されたような基礎杭は、確認されておられません。

また、併せて建物床面の厚みや鉄筋の太さなどの調査も行っております。

本日は、現地調査の状況をお伝えしましたが、今後、現地調査結果の整理も含め、中間報告が可能な段階となり次第、建築分野を専門とされている委員の方々のご意見を伺いながら、次回以降の有識者会議において報告したいと考えております。

簡単ではございますが、現時点での調査報告でございます。

田中座長

説明にもありましたが、建物調査結果の整理状況を踏まえながら、建築分野を専門とされる委員の方々に意見を伺う場を設け、次回以降の有識者会議の場で中間報告を行っていただきたいと考えています。お願いいたします。

続いて、第2回先進地視察について事務局より説明をお願いいたします。

事務局

10月23日（月）、24日（火）にかけて、2回目の先進地視察を行います。委員の皆様からのご提案を踏まえ、兵庫、京都府、石川県を予定しております。委員の皆様におかれましては、1回目の視察と同様に、実りある視察にさせていただきますようよろしくお願いいたします。

田中座長

本日は、横山副座長、小野委員よりご案内があると伺っております。

小野委員

2017年から開催している入船山秋祭りを10月1日に開催します。

2017年に実施した際から、文化と歴史がある場所を、市民がもっと知ろうということをコンセプトにしているイベントです。昨年からは、青山クラブの中庭の安全面を確保する形で開放し、この日だけ実際に中庭を活用するというのをさせていただきます。子どもたちに文化を体験することを体現してもらう日だと考えて実施しています。

入船山秋祭り実行委員会の方でこの場所が大好きな方が、毎年、“子どもはみんな天才”ということをおっしゃいます。こどもは何らかの能力をみんな持っており、歌が上手だね、絵が上手だねと、大人に言ってもらえるかどうか、そういう人たちが周りにいるのだと気付けるかどうかによって、変わってくるのではないかと思います。

そういう体験ができるこどもたちが増えてほしいという想いを込め、実施しているイベントですので、是非、その風景を体験していただきたいと思っております。

河崎委員

明和電機の土佐社長も、中学校の吹奏楽部で海上自衛隊の音楽隊に習い、まさに今、生業（なりわい）としています。こういった大人を増やしたいです。親が止めてしまいますが、子どもにはある意味、勘違いも必要と思うので、勘違いをさせる、できるという場を作ってあげたいと思っております。

小野委員

青山クラブに設置している「この世界の片隅に」のパネルが、設置から年数が経過して色褪せており、作品にも申し訳ない状態です。

この建物（青山クラブ）が本格活用されるまでの間、どう使うのが良いのかと考えた時に、パネルが設置されている場所は、電車から車からも通学路にしている高校生からもとても良く見える場所で宣伝効果が高いと思います。

美術館や入船山記念館の今後を考えていく時に、これらの施設は奥まった場所にあり見えにくい、知らなかったと言われることがあります。

本格活用が始まるまでの間、いろんな人にPRするのに使えるのではないかとという試験的な活用の仕方を、積極的に行っても良いのではないかと考えています。

横山副座長

現在、呉市立美術館では、「明和電機ナンセンスファクトリー展 in 呉」を開催しております。

兵庫県に実在した明和電機という会社の息子二人が、芸術家ユニットで30年前から活動しているのですが、呉と縁の深いことがわかりました。

チラシの表に呉出身の芸術家、裏に呉が産んだ芸術家明和電機が返ってきたというキャッチコピーを入れさせていただきました。1979年に呉に来て、お姉さんがその当時海上自衛隊に勤務していましたので、その日に青山クラブに泊まったということです。

呉に来たのは小学校6年生でしたので、呉市立の小学校中学校を卒業後、県立高校ではバンド活動をやっていて、ティンパニーなどは海上自衛隊の方に習ったというエピソードもあります。その後、筑波大学に入学され、ものづくりと音楽をテーマに息長く活動をされています。30年の節目ということもありますが、今回の企画展で、他の地域でやる明和電機展と特に違う点は、小学校から高校までに描かれた作品や時代を思わせるようなものなども展示しており、大変興味深いと思います。

ギャラリートークに代わる製品説明会やミニライブ、ワークショップ、サイン会、土佐さんが来られる際は朝から夕方まで盛りだくさんで、日頃はおとなしい呉市立美術館とは全く違う顔が見ることができますので、盛り上がりたい方はそういう時にお越し下さい。じっくりご覧になりたい方は平日にお越しただければと思います。

テーマとしては、アートとサイエンスの融合という感じで、天才的な閃きのある方だと思っております。

10月1日の入船山秋祭りの際は、青山クラブ中庭で、ミニライブを開催する予定と聞いております。

<p>呉市長</p> <p>事務局</p>	<p>明和電機の企画展を観に行き、非常に感銘を受けたのは、ナンセンスというのは非常識ではなく超常識だと言っていることです。</p> <p>また、先ほど小野委員が言われたこと（青山クラブのパネル設置の件）は、すぐに実施した方が良いと思います。できるかできないか判断してください。</p> <p>10月1日の入船山秋祭りの際、明和電機の土佐社長にお話を聞く機会をいただいていますので、有識者会議の中でフィードバックできるようなことであれば報告したいと思っています。</p>
<p>4 閉会</p>	
<p>事務局</p> <p>田中座長</p>	<p>今回は、第4回会議を11月中旬から下旬での開催を予定しております。</p> <p>次回会議では、地区内の整備コンセプト、求められる機能等がある程度とりまとめでいただき、それを基に市議会へ報告したいと考えております。</p> <p>皆様の屈託のない意見をいただきながら、より良いものを作っていければと思っています。よろしくお願いいたします。</p> <p>以上で本日の有識者会議終了と致します。みなさまどうもありがとうございました。また次回もよろしくお願いいたします。</p>